

釧路教育大学生：9月実習

今年度第2回企画：12名+教官が出入り！

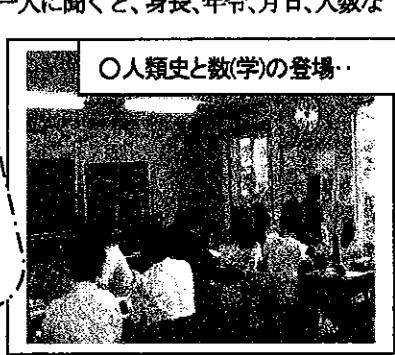
【経過】 実習は年4回、6月に続く第2弾。希望学生が多く、特に1年生が半分！これからの中堅に期待？

今回は前半2.1年生、後半4年生の授業+余市教育福祉村レク(夕張以来2回目!!)、子ども館体験会。初日から笑顔の絶えない賑やかな1週間でした。(感謝)

9月26日(月) 午前はお通常通り自己紹介タイム、後は学生が用意した交流ゲームを楽しみました。

最初の授業は、菅原奈央さんと瀧澤沙幸さん2人の『北方領土の択捉島見聞記～領土問題について考えてみよう』のマップ。生徒たちは配られた白地図中の日本を色塗りした後、択捉島がどこにあるかと問われます。生徒はおよその位置と大きな島だということは知っているものの、国後と択捉をはっきりとは指し示せない様子。漢字で書かれた択捉・国後・色丹・歯舞諸島の読み方と全体をまとめて北方領土ということを確認。続いて択捉島の面積を札幌市と比較、昔と今の人口と住んでいる人の違い(昔は日本人、今はウイ人)が説明されてから、初日本番の旅行記が映像にて紹介されました。

芸術学校・博物館、日本人墓地などの映像、ホムビジツの家族・歓迎料理、町の情景、大きな魚工場などが紹介され、所々に三択問題を織り交ぜながらの説明が進行します。生徒たちは興味津々で映像と話引きこまれていました。訪問した日本側の大学生・教官とウイ側の中高校生との交流会では、教育についての話し合いが行なわれ、文化交流で日本側は「よさこい」を披露したことなどが紹介されました。



また、旅行の中で感じた不思議な点として、日本人が乗っていった船が直接択捉島の港に入らず、上陸にははしけ船が使われたこと、宿泊は島内ではなく乗ってきた船に戻って寝たこと、日本と北方領土には2時間の時差があることが説明され、これらは授業2回目テーマである「北方領土問題」に関係があることが提示されて1日目の授業が終了しました。

9月27日(火) ~~~~~

前日授業の続編「北方領土問題を様々な視点から考える」がテーマ。5人の学生がそれぞれウイ人、日本人、ジョン・レノ、アザシ、シカマの姿で出てきて北方領土について主張を展開。特にウイ人と日本人の主張は、過去の歴史的事実や第2次世界大戦との関係など具体的で豊富な材料をもとにしたものでした。ただ生徒はそれぞれの主張を聞き取ってメモに書き留めるのは難しかったようでした。それでも、登場したそれぞれの姿・格好の面白さが興味深く、難しい内容を一生懸命に伝えるために大きな効果を生み出すことに成功していました。

その後、生徒・学生が3グループに分かれて話し合い。ほとんどの生徒が、どの主張に賛成するかとか、自分は北方領土についてどう考えるかと積極的に発言。生徒の多くは、「人間の都合だけじゃなく、動物や自然のこともしっかり考えてくれ」というシカマ君の主張を支持していました。最後に、日本からの視点だけでなく、いろいろな視点や考え方を知って北方領土について考えていくことが大切なことだ、とまとめられて授業が終了。(後、秀さんの日本語の授業)

午後、学生2つめの授業は新畑結香さんの『人間の歴史における算数』1回目。まず身近にある数の例を生徒一人一人に聞くと、身長、年齢、月日、人数な

どの答え。「これらの数はいつからあるのか」の問いには、「ビッグバンから」の声も出つつも、人間が生活の中で生み出してきたことが説明される。「今までやってきた数にはどんあものがある」の問いには、足す・引く・かける・割るとか、方程式、因数分解、平方根、そして小数、分数、負の数という答えが出て、ここから授業の本題に移っていきました。

黒板とワークシートに人間の歴史の流れ「狩猟採集時代」～「商業の広がり」「大航海時代」が示され、分数、小数、負の数、数がどの時代にできたのかを予想することに、各時代の様子をイメージさせる絵を見せたりしながら、生徒の予想やその理由を尋ねていき、それぞれの数のできた時代を確認しました。

小数は、利子の計算をしやすくするのに便利なものとしてできたことが説明され、生徒は分数では計算が大変なことを実際にやってみて実感。小休憩後、みんなで当時の時代にタイムスリップ。生徒の何人かに当時の商人になってもらい、現金が不足の時や手形での取り引きで借金を意味するものとして負の数が生まれたことが説明されてこの日の授業は終了です。

9月28日(火) ~~~~~

3日目は『人間の歴史における算数』の2回目。昨日の補充として小数による利子計算をした後、分数を考えるために古代エジプトにみんなでタイムスリップ。

「分数=分ける数だが、何を分けたのか」の問いに、生徒からは、稲、麦、魚、野菜、土地などの答え。授業者がほしい「パン」などの答えが出てこなかったのは質問の仕方が問題だったのか。生徒には円形の紙が配られて、パンの分け方から生まれたエジプト分数を体験した。エジプト人の算数の問題も紹介され、当時の算数が人の生活と密着していたことが説明された。

次に再び1万年ほど昔にタイムスリップして数(自然数)の起源を探る旅に。遊牧時代には、人類は家畜の数を石を使って数えていたことが説明された。最後に、この時代の見つかったオカシの骨に「55本の刻み」の入った写真を載せたワークシートが配られ、「何の数を刻んだものか」という問いに、生徒はみんな頭を悩ませる。授業者の予想は、日数や月数を刻んだ暦のようなものではないかということに触れ、4年生の卒論と関係した授業は終了しました。

なお、この日の1時間目は大家が理科実験「金属の共通の性質」。午後はスクール旅行の話し合いや、4-5日目の余市での活動(→別紙記載)準備のハウイン衣装づくりを行った。+授業検討会2回。(大家:記)



大学生の声～黒板寄せ書きより抜粋

■スクールのみんなと過ごした毎日はあっという間で楽しすぎた。みんなの楽しそうに笑う顔を見ることがすごく好き！また絶対来るね。みんなに会いに来る！そのときはめーっちゃいっばい遊ぼうね！みんなのことを思い出しながらこれからも頑張るね★(1年MM) □みんなと1週間一緒に過ごせて本当に楽しかった！まだ僕は1年生だからこれからもいっばい来たいと思います★その時はまたよろしく！たくさん話して遊ぼう！ありがとう！(1年KK) ■1週間、ありがとうございました。みんなのおかげでめっちゃ充実したよ♪次来た時もよろしくね!!(1年ST) □1週間とっても楽しかったよー！ありがとうございました。こんなに早い1週間は初めてだった気がします。本当に充実してました！また色んなお話ししようね★みんな大好きだよ～!!(1年SK) (他が-は下図にて)

